

説明的文章の読解に必要な力に対する一考察

— 小学校低学年における係り受け解析の力の変容 —

教育学研究科 教育実践創成専攻 教科領域実践開発コース 初等教育分野 保坂友理

1.問題と目的

(1)研究の目的

本研究は、国語の単元でリーディングスキル(基礎的読解力)の観点を取り入れた授業を行い、児童の係り受け解析の力を向上させることを通して、説明文を読む力を向上させることを目的とする。

(2)目的設定の背景

2015年に実施されたPISA調査¹⁵では、「文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすること」や「視覚的な情報と言葉との結びつきが希薄になり、知覚した情報の意味を吟味して読み解くこと」などが、読解力の課題として挙げられた。また、新井(2018)¹は、自身の開発した基礎的基本的な読解力を測るテストである、リーディングスキルテストの結果から、中学生の半数以上が教科書を読むことができないと考察している。このように、現代の児童生徒は、文章を読み取ることが苦手である傾向にある。そこで、本研究では、文章を読み取るために必要な、基礎的基本的な読解力であるリーディングスキルを伸ばすことで、児童が文章を読み取ることができるよう研究を進めた。

(3)リーディングスキルとは何か

国立情報学研究所教授である、新井紀子氏が考案したもので、事実について書かれた短文を正確に読む力のことを指す。²

リーディングスキルは、以下の6つの観点に分類される。

①係り受け解析:主語と述語の関係や修飾語と被修飾語の関係が理解できる。

②照応解決:指示代名詞が何を指すのかが理解できる。

③同義文判定:2つの違った文章を読み比べて、意味が同じであるかどうか理解できる。

④推論:文の構造を理解した上で、生活体験や常識、さまざまな知識を総動員して文章の意味を理解できる。

⑤イメージ同定:文章と図形やグラフを比べて、内容が一致しているかどうかを認識できる。

⑥具体例同定:定義を読んでそれと合致する具体例を認識できる。

このような力が身に付いているかどうかを測定するものが、リーディングスキルテストである。以下に、リーディングスキルテストの例題を挙げる。² (一部抜粋)

【例題】

①係り受け解析

以下の文を読みなさい。

天の川銀河の中心には、太陽の400万倍の程度の質量をもつブラックホールがあると

推定されている。

この文脈において、以下の文中の空欄にあてはまる最も適当なものを選択肢のうちから1つ選びなさい。

天の川銀河の中心にあると推定されているのは()である。

・天の川 ・銀河 ・ブラックホール ・太陽

正解:ブラックホール

リーディングスキルテストは、「事実について書かれた短文を正確に読む力」を測るものである。本研究では、説明文を扱うため、読む対象が文章である。確かに、文が読めることがそのまま文章の読解力育成につながるとはいえない。しかし、文の構成を捉えて読むことは、文章読解の基礎の1つである。その基礎を定着させること

が、よりよい文章読解につながると考えられる。

(4)リーディングスキルと学習指導要領の関連

まず、平成28年12月21日中央教育審議会（答申）には、次のように述べられている。（下線筆者）¹³

教科書の文章を読み解けていないとの調査結果もあるところであり、文章で表された情報を的確に理解し、自分の考えの形成に生かしていけるようにすることは喫緊の課題である。

下線の調査は、リーディングスキルのことを指し示している。このことから、文部科学省でも、リーディングスキルテストの結果を重視しているということがわかる。また、筆者も学習指導要領¹³とリーディングスキルテストの関係を調査した。調査結果は、以下の表のとおりである。

表1 学習指導要領とリーディングスキルの関係

学年	区	学習指導要領
1学年及び2学年	読み受け	文の中における主語と述語との関係に気付くこと。
	対応	
	読解文判定	
	結論	場面の子供らを通して、登場人物の行動を具体的に想像すること。 文章の内容や自分の経験とを結びつけて、感想をもつこと。 事柄のしくみを説明した文章なども読み、わかったことや考えたことを述べ発表。
3学年及び4学年	読み受け	文章の構造や内容の状況に応じて、語彙や見出し、図表などを参照しながら、文章全体の内容の把握と各部分に書かれている内容の把握とを求めていくこと。 文章の構造や内容の状況に応じて、事や事柄の種別、場面の子供らを描いた図表などを参照しながら、誰が、どうして、どうなったかなどを把握することを繰り返して、物語全体の内容を正確に理解することが重要である。
	対応	
	読解文判定	
	結論	登場人物の気持ちや性格、場面について、場面の切り変わりや結びつけて具体的に想像すること。 文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつこと。 自分の考えをもつことは、文章を読んで理解したことについて、自分の経験や知識の内容と結びつけて自分の考えを形成することである。
5学年及び6学年	読み受け	主語と述語の関係、動詞と助動詞との関係
	対応	指し示す語句の役割
	読解文判定	目的を冒頭して、中心となる語や文を見つけて要約すること。
	結論	考えとそれを支える理由や証拠、全体に中心な情報と情報との関係について理解すること。 自分の考えをもつことは、文章を読んで理解しながら、考えとそれを支える理由や証拠との関係などについて、独自に考えをまとめること。
7学年及び8学年	読み受け	文の中の語句の前後関係
	対応	文と文の接続の関係
	読解文判定	事実と感想、意見などの関係を捉え直しを促し、文章全体の構成を捉えて要約を整理すること。
	結論	人物や物事などの全体像を具体的に想像したり、登場人物の考えをまとめること。 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること。 自分の考えをまとめることは、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の経験や知識の内容と結びつけて自分の考えを形成することである。
9学年及び10学年	読み受け	目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の構成方について考えたりすること。
	対応	
	読解文判定	事実と感想、意見などの関係を捉え直しを促し、文章全体の構成を捉えて要約を整理すること。 自分の考えをまとめることは、文章を読んで理解しながら、考えとそれを支える理由や証拠との関係などについて、独自に考えをまとめること。
	結論	自分の考えをまとめることは、文章を読んで理解しながら、考えとそれを支える理由や証拠との関係などについて、独自に考えをまとめること。

例えば、学習指導要領の「第1学年及び第2

学年2内容〔知識及び技能〕カ「文の中における主語と述語の関係に気づくこと」は、リーディングスキルの係り受け解析と関連がある。この表からわかるように、多くの面で、学習指導要領とリーディングスキルの関連が伺える。そこから、学校現場にリーディングスキルの観点を取り入れることは、児童の文章を読む力を向上させることにおいて、有効であるといえる。

(5)昨年度の研究の課題と改善方法

昨年度の研究では、5年生を対象とし、「天気を予想する」という教材で授業を行った。その授業の前後でテストを行い、児童のリーディングスキルの変容を測った。その課題は、2点ある。それは、テストの点数が比較しづらかったということと、すべてのリーディングスキルを1つの教材で、向上させようとしてしまったということである。以上の2点を改善するために、本研究では、授業前後に行うテストを、全く同じ内容のものにする、リーディングスキルの基礎となる「係り受け解析」に重点を置いて、指導方法を考える、という2つの手立てを講じていく。ここで、係り受け解析を選択した意図としては、係り受け解析が、文章読解の基礎となる力であるということと、対象学年である2年生で身に付けるべき力として、係り受け解析が挙げられるからである。

森山(2010)¹²でも、「日本語では主語がない文も自然に使われますので行き過ぎた指導は問題ですが、必要に応じて基本となる主述のつながりを押さえるようにすることは必要です。」と述べており、係り受け解析が読解の基本であるということがわかる。

3. 授業実践の内容と評価方法

研究は、山梨県内の公立小学校の2年生(28人)1クラスで行う。リーディングスキル向上を目指す視点を取り入れた授業を実践し、独自に作成するテストでその効果を評価するという方法をとることとした。テストは、リーディングスキルを評価するもので、教科書の単元に合わせたものを作成する。そのテストを授業の前後で実施し、変容を

みる。その変容から、授業で係り受け解析の力が向上したかということ考察する。なお、実際に実施したリーディングスキルテストは「付録 1」及び「付録 2」として本論の末に掲載している。

授業前のテストのもととなる単元は「どうぶつ園のじゅうい」2年(光村図書)¹¹である。その後、同単元で、リーディングスキル向上の観点を入れた授業を実践する。その後同単元のリーディングスキルテストを実施し、授業実践の効果を評価する。

「どうぶつ園のじゅうい」は、動物園で働く獣医のある 1 日の仕事を、時系列で説明している説明文である。

次に、リーディングスキルの観点を取り入れた授業の実施についてである。単元は、「どうぶつ園のじゅうい」2 年下(光村図書)を取り上げた。この単元を取り上げた理由は、授業を行うのが 2 学期であり、その時期の説明的文章の中で、読む際に、係り受け解析の力が特に必要な教材であったからである。

4. 授業の概要

(1) 授業実践の概要

- ①対象 山梨県内公立小学校
- ②実習期間 5 月～12 月(週 1 回)
- ③授業実践
 - 1)対象 第 2 学年 1 学級(28 名)
 - 2)実践期間
2020 年 10 月 12 日～10 月 16 日、
10 月 19 日～10 月 23 日(計 10 日)

(2) 実践単元について

- ①単元名 読んで考えたことを話そう
(『どうぶつ園のじゅうい』 光村図書)
- ②単元の目標
 - ・時間を表す言葉に注目して、説明の順序を捉えることができる。【知識及び技能】
 - ・文章の中の大事な言葉や文を書き抜き、自分の知識や経験と結び付けて感想をまとめ、発表し合うことができる。【思考力判断力表現力等】
 - ・文章と自分の経験と結び付け、進んで感想を持ち、自分の考えを話そうとしている。【学

びに向かう力人間性等】

④単元の評価規準

知識及び技能	思考力、判断力、表現力等	主体的に学習に取り組む態度	リーディングスキル
共通、相違、事柄の順序など情報と情報との関係について理解している。	・「読むこと」において、時間的な順序や事柄の順序などを考えながら、内容の大体を捉えている。 ・「読むこと」において、文章の内容と自分の経験とを結び付けて、感想をもっている。	進んで文章と経験とを結び付けて感想をもち、学習の見通しをもつて考えたことを話そうとしている。	仕事の内容をまとめたリ、誰が何をしたのかということを意識しながら読み取ることを通して、文の係り受け関係を捉えることができる。

5. 先行研究

新井 (2019)²では、係り受け解析の力を向上させるための手立てとして、「主語と動詞と目的語を使って見たことを短い文で説明できるとよい。」としている。また、犬塚 (2020)⁵では、「日常的な説明や発問の捉えなおし」が重要であるとしており、以下の表のような活動を提案している。(強調筆者)

表 1 係り受け解析を向上させるための活動例

リーディングスキル	授業・活動の例
係り受け解析	主語に対応する文に置き換える 文章の視写(朝の活動) 教科書を読み、違う言葉で言い換える

以上の先行研究より、授業の発問や説明を係り受け解析を意識したものにする、主語に対応する文に置き換えるような活動を行うこと、教科書を読んで自分なりに説明することなどの活動を取り入れていくことで、係り受け解析の力を向上する授業にしていけると考えられる。

6. 授業の実際

本単元では、先述した先行研究を踏まえ、係り受け解析の力を向上させるための手立てを講じた。大きく問いかけと活動（作業）の2つの手立てを工夫した。発問は、誰がいつ何をしたかを問うことと、じゅういさんがしたことなのか、しいくいんさんがしたことなのかを問うことを中心とした。活動（作業）は、毎時間教科書から問題を出したり、ワークシートに教科書から読み取った内容をまとめさせたり、それに対する自分の考えを書かせたりした。

まず、問いかけは、教科書に線を引かせながら行った。それにより、文章に立ち返り、より主述関係を意識することができる考えたからである。また、不足がある場合は問い返しをした。例えば、「くすりを飲んだのは誰でしょう。」と問いかけをしたとき、「にほんざる」と答えた場合、「にほんざるは、なぜくすりを飲んだのでしょうか。」と問い返しをした。これは、「くすりを飲んだ」のが、「けがをしたにほんざる」であるということを押さえ、文章の適切な主述関係を確認することができるようにするためである。

次は、問題については、クイズ形式で行った。問題は、「じゅういさん」がしたことか、「しいくいんさん」がしたことかということを中心とした問題を出した。ただ問うだけだと一問一答になってしまうので、「じゅういさん」と「しいくいんさん」のカードを使用して、ゲーム感覚でできるようにした。以下に、その様子を載せる。

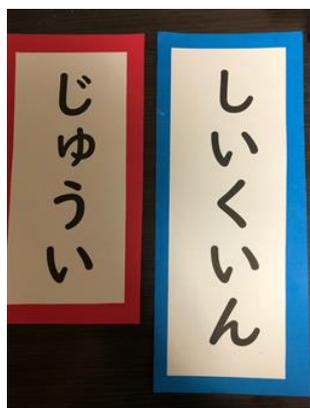


図1 問題で使用したカード



図2 問題を出題した様子

この活動では、ひっかけ問題として、動物がしたことなども問うようにして、何の動物がどうしたから、「じゅういさん」が何をしたかということを読み取れるようにした。

次に、ワークシートについては、実際に使用したものを巻末に掲載している。本研究で扱った教材の特徴としては、「じゅういさん」の仕事が時系列で記述されているというところにある。そこで、ワークシートに「いつ」「しごと」「わけ」「くふう」をまとめる活動を行った。また、自分の考えをまとめる活動として、じゅういさんの仕事のどんなところが大変だと思うかということを書く活動を行った。

以上のような活動を行うことにより、係り受け解析の力の向上を図った。

7. 結果

テストの結果は、以下の表のとおりである。

表1 問1における児童の回答の変容

1回目	◎	○	△	×
	36%	18%	28%	18%
2回目	◎	○	△	×
	44%	44%	12%	0%

◎：どうぶつたちが元気にくらせるようにすること。
 ○：どうぶつたちが元気にくらせるようにすることです。
 △：どうぶつたちが元気にくらせるように
 ×：どうぶつ、じゅうい、べんきょう

表 2 問 2 における児童の回答の変容

1回目	◎	○	△	×
	18%	3%	68%	11%

2回目	◎	○	△	×
	50%	0%	46%	0%

◎：けがをしたにほんざる
 ○：けがをしたにほんざるです。
 △：にほんざる、日本ざる
 ×：けがをしたにほんざるがくすりをのまないと、しいくいんさんがこまっていました。

◎が正答を答えた児童で、◎に近づくほど正答に近い回答をしているということを表している。表を比較してみると、問 1, 問 2, 共に正答の児童が増えていることが分かる。

8. 成果と課題

①成果

成果は、大きく分けて 2 つある。それは、係り受け解析の力が向上したといえるということと、係り受け解析を意識している児童が見受けられたということである。

まず、係り受け解析の力が向上したといえるということについてである。このことは、リディングスキルの結果から判断したことである。先述した結果からもわかるように、正答に近い回答をした児童が増えている。実際の回答を見てみると、問 1 では、「どうぶつ」と回答していた児童が、「どうぶつたちが元気にくらせるようにすること」と、正答を解答できるようになっていた。また、問 2 においても、「日本ざる」と回答していた児童が、正答である、「けがをしたにほんざる」と回答することができるようになっていた。問 1 では 36%、問 2 では 39%の児童が、2 回目のテストで正答を答えることができるようになった。以上より、係り受け解析の力が向上したと考えられる。

次に、係り受け解析を意識している児童が見受けられたということについてである。このことは、授業の様子から判断したことである。特にその様子が見られた場面は、発言の場面、問題を出す場面で見受けられた。それに加

えて、ワークシートの記述においても変化が見られた。まず、発言の場面では、主に、授業者の発問に対して、係り受け解析を意識した返答ができていたと考えられる。具体的な発言例は、以下のようになっている。

T：くすりをのまなかったのはだれですか。
 C：さる
 T：ただのさる？
 C：けがをしたにほんざる

T：朝はどんな仕事をしていたの？
 C：見回り
 T：どこの？
 C：どうぶつ園の中

T：（写真を見せて）これは何をしているところ？
 C：いのししのおなかの中に赤ちゃんがいるかどうかきかいてあててみる

また、全体で発言した児童のうち、テストの回答に変化があった児童は、57%であった。つまり、発言をすることにより、係り受け解析の力が向上するといえる。

次に、問題を出す場面では、こちらが出題した問題に対して、積極的に回答する児童が多くいた。それは、「じゅういさん」と「しいくいんさん」のカードを使い、全員が意思表示しやすいためであると考えられる。この様子から、児童が楽しく係り受け解析を意識することができたといえる。また、単元の終末において、数名の児童が自分で問題を考え、ワークシートの余白に考えた問題を記述したり、全体に向かってその問題を出題したりしていた。授業者は、問題の形式などを指示していたわけではないので、毎時間の学習の結果として、児童自身が、問題を考えることができていたといえる。問題を出題するためには、文章を理解していなければならない。つまり、係り受け解析の力がないと、問題を出すことができないということである。このことから、教科書を読んで、自分で問題を考えるという活動が、係り受け解析の力を向上させる手立て

として、有効であったと考えられる。

最後に、ワークシートの記述についてである。単元の学習を通して、児童のワークシートへの記述に変化があった。具体的には、はじめのうちは、「○○が××をしたから大変だと思いました。」という書き方ができず、主語を抜かしてしまう児童が多く見受けられた。しかし、授業を重ねていく中で、例えば、「ワッシャーがあげられて、ちりょうがむずかしいとおもったけどしいくいんさんにおさえてもらうのは、すごいと思った。」というように、誰が何をしたからどう思ったかという、主述関係を意識した書き方に変化していく児童が大半であった。このことから、ワークシートへの記述を毎時間行うことにより、係り受け解析を意識した書き方ができるようになるということがわかる。

以上のような児童の様子から、係り受け解析の力が向上したといえるということと、係り受け解析を意識している児童が見受けられたということが、本研究での成果であるという考察に至った。

②課題

課題は、4つある。1つ目は、他クラスとの比較である。本研究では、テストを配属先のクラスでしか行っていないので、授業のどの活動が力の向上により効果的であったかということを経験することができなかった。よりよい活動を提案していくためには、リーディングスキルの観点を取り入れていないクラスとの比較検討が必要である。

2つ目は、リーディングスキルテストの継続である。本研究では、テストを1単元で行ったので、その単元における、児童の係り受け解析の力の変容しか見取ることができなかった。リーディングスキルは他の能力同様、継続していくことで定着していくものであるため、他の単元においてもテストを実施し、どんな文章でもリーディングスキルを意識して読むことができるようにしていくべきである。

3つ目は、学年ごとに向上させるべきリーディングスキルを検討することである。本研究では、2

年生におけるリーディングスキルについて研究してきた。また、前年度においては、5年生におけるリーディングスキルについて研究してきた。これらの研究に加え、他学年で育成すべきリーディングスキルを検討していくことで、先を見通したテストの継続や授業改善につながっていく。それにより、確実なリーディングスキルの定着が見込め、中学へのスムーズな接続にもなっていくと考えられる。

4つ目は、他教科への応用である。筆者は、2年間の研究で自身の専門であり、文章読解の基礎となる教科である国語からのアプローチを試みていた。しかし、新井氏が考案したリーディングスキルテストでは、国語の教科書だけでなく、算数や理科、社会などの教科書からも出題されている。それは、リーディングスキルテストが、多様な文種を読めるようにすることを目的としているからである。筆者の研究のきっかけも、問題文を読めずに問題を解くことができない児童生徒が多くいるという、国語だけでない課題があるというところから始まっている。以上のことから、他教科においても教科書などの文章を読解することができるように、リーディングスキルの観点を取り入れる必要がある。

9. 今後の展望

本研究の成果と課題を踏まえ、今後の展望を述べる。今回の授業実践により、係り受け解析の力を向上させることができたことが、大きな成果である。授業で行った活動を他の単元や他学年でも応用できないか、模索していきたい。また、課題より、活動の精査やリーディングスキルの向上を目指し、リーディングスキルテストを継続することと、どの文種も読めることができるように、各学年、各教科において向上させるべきリーディングスキルを検討することが必要であるといえる。2年間の研究結果を基に、各学年で育成すべきリーディングスキルを考察し、他教科の学習指導要領との関連も分析することで、6年間でリーディングスキルの定着を図っていきたい。

【参考文献】

1. 新井紀子 (2018) 『AIvs.教科書が読めない子どもたち』
2. 新井紀子 (2019) 『AIに負けない子どもを育てる』
3. 福田秀貴 (2018) 「判断のズレ」を可視化・共有する場としての板書 『教育科学国語教育』 No.822 明治図書
4. 土方大輔 (2020) 「学習課題」ベストセレクション 『教育科学国語教育』 No.847 明治図書
5. 犬塚美輪 (2020) RST の活用—RST を指導に役立てる— 『教育科学国語教育』 明治図書 No.851
6. 学校図書 (2015) 『みんなとまなぶしょうがっこうこくご 1ねん上』
7. 学校図書 (2015) 『みんなとまなぶしょうがっこうこくご 1ねん下』
8. 教育出版 (2015) 『ひろがることばしょうがくこくご 1下』
9. 間瀬茂夫 (2020) AI に負けない「読解力」を考える 『教育科学国語教育』 明治図書 No.844
10. 間瀬茂夫 (2020) 国語科における「読解力」のとらえ方 『教育科学国語教育』 No.845 明治図書
11. 光村図書 (2019) 『こくご 二上 たんぽぽ』
12. 森山卓郎 (2010) 『国語教育の新常識—これだけは教えたい国語力—』 明治図書
13. 文部科学省 小学校学習指導要領(平成 29 年告示)
14. 文部科学省ホームページ 国際学力調査 (PISA、TIMSS) (https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/gakuryoku-chousa/sonota/1344324.htm) (6.26.2020 閲覧)
15. 文部科学省「読解力の向上に向けた対応策について」 OECD 生徒の学習到達度調査 (PISA2015)
16. 東京書籍 (2015) 『あたらしいこくご 1上』
17. 東京書籍 (2015) 『あたらしいこくご 1下』
18. 渡辺貴裕 (2020) 「教科書が読めない」に踊らされる大人たち 『教育科学国語教育』 明治図書 No.846
19. 渡辺貴裕 (2020) 「読む」という行為の捉え方と「〇〇力」がもたらす転倒 『教育科学国語教育』 明治図書 No.847
20. 矢澤真人 (2018) 5 文法 『国語教育指導用語辞典』 教育出版

